

## 〈中学校特別活動部会〉

### 研究主題

「自ら学び考える力を育てる指導の工夫・改善」

—学級活動(2)アにおける、生徒一人一人の健全な生活態度を養う取組等を通して—

### 研究の概要

学習指導要領に示されている特別活動の目標は、学級活動、生徒会活動及び学校行事の指導の充実によって実現できるものである。そして、3つの内容の指導の充実を図るためには、それぞれが望ましい集団活動として展開され、相互に補充し合い、交流し合うことが大切である。特に、学級活動は、生徒の学校における基礎的な生活単位ともいべき学級集団を基盤として行われる活動であり、学校生活の全般にかかわる事柄を扱うものである。したがって、学級活動の充実なくしては、生徒会活動、学校行事の質的向上はなく、特別活動の目標を達成することはできない。

学級活動の活動内容の1つである学級活動(2)の内容例ア（以下、学級活動(2)ア）は、中学校段階の生徒が直面している問題とのかかわりの中で、人間としての生き方を探求させることにより、生徒一人一人の健全な生活態度を育成しようとするものである。今日、各学校においては、様々な不安や悩み、また自分の目標が達成されないこと等から、無気力傾向に陥ったり、非行に走ったりする姿が一部の生徒に見られる。このような状況を踏まえ、学級の生徒の相互理解を深め、生徒が直面している問題とともに解決していこうとする意欲等を育成すること等を目指して、学級活動(2)アを一層充実させることが求められている。

本部会では、平成17年度の研究テーマでもある「学習指導要領の『基準性』を踏まえた個に応じた指導の在り方」を踏まえ、学級活動(2)アの6つの項目の中で、どの内容が十分に実施されていないか等の実態調査及び分析を行うとともに、活性化されていない内容についての研究を進めた。さらに、平成16年度の研究成果を生かし、学級活動(2)アにおける、評価を生かした、個に応じた指導の在り方を追求することとした。

### I 研究の目的

生徒一人一人の健全な生活態度を育成するための個に応じた指導の在り方を追究するために、学級活動(2)アの項目、「(ア)青年期の不安や悩みとその解決」、「(イ)自己及び他者の個性の理解と尊重」、「(ウ)社会の一員としての自覚と責任」、「(エ)男女相互の理解と協力」、「(オ)望ましい人間関係の確立」、「(カ)ボランティア活動の意義の理解」について活動の充実を図る上での阻害要因を考察するとともに、指導の在り方や実践例を提示する。

### II 研究の方法

学級活動(2)アの各項目が、各学校において、どのように実践されているかを把握するために実態調査を行い、その結果を分析し、学級活動(2)アの活動をいかに充実させていくか、改善策等の研究開発を行った。また、研究過程においては、研究を検証するための授業を実施した。

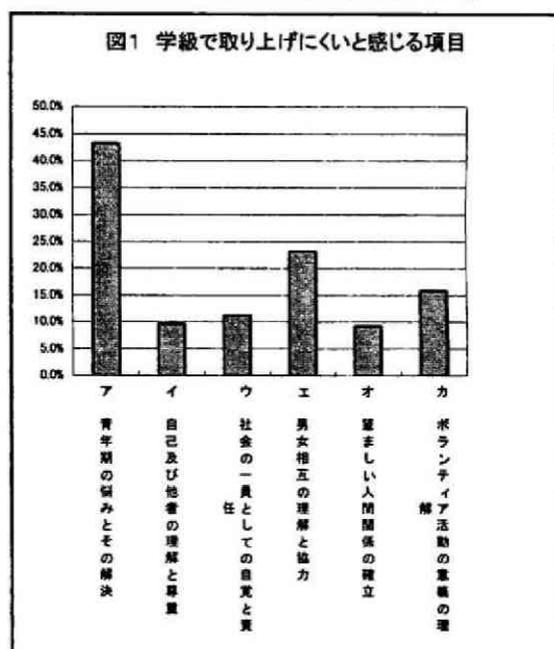
### Ⅲ 研究の内容

#### 1 学級活動(2)アの充実に向けた各学校の課題

学級活動(2)アは、中学校段階の生徒が直面している問題とのかかわりの中で、人間としての生き方を探求させるとともに、生徒一人一人の健全な生活態度を育成する、心身の成長のために大切な活動である。

学習指導要領には、学級活動(2)アの項目として、「(ア)青年期の不安や悩みとその解決」「(イ)自己及び他者の個性の理解と尊重」「(ウ)社会の一員としての自覚と責任」「(エ)男女相互の理解と協力」「(オ)望ましい人間関係の確立」「(カ)ボランティア活動の意義の理解」の6つを示している。しかし、本部会で本年度行った都内中学校96校879名による実態調査において、内容例によっては、各学校において、意図的・計画的に充実した実践が行われていない場合が見られる。そして、実態調査の結果をもとに活動が充実しない要因等を以下のとおり分析した。

図1のように6つの項目の中でも、(イ)、(ウ)、(オ)のように、「個人や他者の個性を理解する活動」や、「集団の規律や社会のルール、人間関係の在り方等を考えたりする活動」を通して、学級や学校の生活の充実や向上を図ることを目的とした内容例は実施されている場面が多い。それは、教師も比較的取り上げやすいと感じているからだと思われるが、実施されている場合でも突発的な学級での生活指導上の問題に対応して実施されるケースが多い。一方、6項目の中でも(エ)、(カ)については、専門的な知識の習得や外部機関との連携、学校行事・生徒会活動・保健体育科や道徳などの学習との密接な相互の関連により計画を立てていく必要があるが、時間的な制約等から、計画的に実施されなかったり、教師主導の活動になってしまったりする傾向がある。



「(ア)青年期の不安や悩みとその解決」については、学級活動の中で取り上げにくいと感じている教師が特に多い。この理由として、自分に対する他者の態度や評価で動揺しやすいこと、自分の悩みを打ち明けることで、他者からの誹謗中傷を受けるのではないかという不安をもちやすいということ、あるいは、生徒が思春期をむかえていることに教師が配慮するあまり、学級集団での実施に躊躇してしまうこと等が考えられる。

#### 2 学級活動(2)の改善・充実に向けて

学級活動(2)アの活動を改善・充実していくためには、学級活動(2)アに示された活動内容を、単に均等に取り上げるのではなく、学校や学級の実態に則し、生徒の発達段階に応じて重点化を図ったり、相互の活動の関連を図ったりするなど、指導計画を作成することが重要である。

また、教師が取り上げにくいと感じている(ア)などの項目についても、教科担当教師・養護教諭・スクールカウンセラー等の専門性を生かした活動や外部機関等と協力を図った活動、他学年や異校種と交流する活動などを工夫し、具体的な指導内容や方法を改善する必要がある。

(1) 学級活動(2)アの指導計画作成上の工夫

学級活動(2)アを一層、改善・充実させるためには、学習指導要領に示された指導計画作成に当たっての基本的な配慮事項である「学校の実態や生徒の発達段階及び特性等を考慮し、教師の指導の下に生徒の自主的、実践的な活動を助長すること」等を的確に押さえておく必要がある。本部会では、学級活動(2)アの指導計画を作成するに当たっては、特に以下の事項について配慮することが大切であると考えた。

◆ 指導内容の重点化

年間指導計画の作成に当たっては、学年の実態や生徒の発達段階や各教科等で学ぶ内容等を考慮して、取り上げる活動内容の重点化を図るとともに、実態に応じた活動を配列する。また、各活動においては、ねらい(育てたい力)、評価規準を明確にしたものとする。

【内容の重点化例】

内容項目		1学年	2学年	3学年
(7)	青年期の不安や悩みとその解決		◎	○
(イ)	自己及び他者の個性の理解と尊重	◎	○	○
(ウ)	社会の一員としての自覚と責任	○	○	◎
(エ)	男女相互の理解と協力	○	○	◎
(オ)	望ましい人間関係の確立	◎	○	○
(カ)	ボランティア活動の意義	○	◎	○

【重点化を図った活動例—青年期の不安や悩みとその解決—】

2学年 年間指導計画抜粋「不安や悩みについて話し合おう」

月	活動名	活動内容			時数	指導のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	評価
		1	2	3					
9月	自分たちの不安や悩みについて話し合おう		◎	○	2	不安や悩みについての問題解決に向けて班や学級で話し合いができる。	・意識調査の実施 ・グループ協議 ・学級での協議	・班長や学級委員を中心とした自治的活動の活性化を図る。 ・プライバシーに配慮する。	・皆で解決する大切さを知る。 ・解決する方法について理解する。

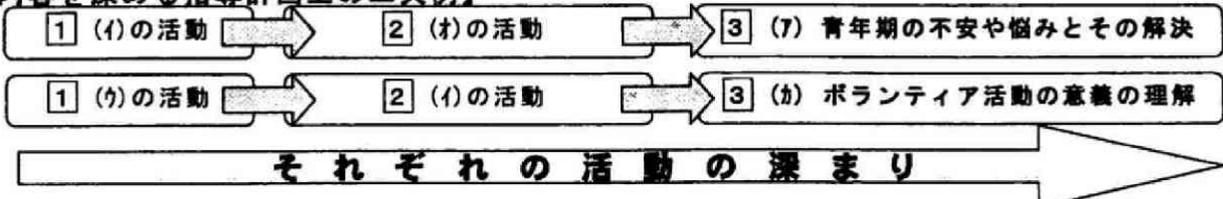
3学年 年間指導計画抜粋「下級生の不安や悩みについて考えよう」

月	活動名	活動内容			時数	指導のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	評価
		1	2	3					
9月	下級生の不安や悩みについて考えよう		◎	○	1	下級生の悩み等について班や学級で話し合いができる。	・グループ協議	・目的を考えて上級生の立場でまじめに考えさせる。	・問題解決には多くの方法があることを知る。

◆ 学級活動(2)アの内容の関連による改善・充実

学級活動(2)アの(7)～(カ)の各活動内容を充実させるためには、各活動内容の関連性を考え、指導計画を作成することが効果的である。例えば「(エ) 男女相互の理解と協力」を実施する前に、「(イ) 自己及び他者の個性の理解と尊重」や「(オ) 望ましい人間関係の確立」の活動を実施することで、生徒一人一人の個人及び集団に対する肯定的な意識が醸成され、(エ)の活動が深まりを見せる。

【内容を深める指導計画上の工夫例】



(2) 人と人とのかかわりを大切にした活動の工夫

学級活動の内容(2)アの6項目は、「人と人とのかかわり」の中で人間としての生き方についての自覚を深めるだけではなく、社会の中で自己を正しく生かす能力を養うことと広くかかわらせて指導することが大切である。しかし、現代の児童・生徒は、人間関係の希薄さや他人に共感して思いやる心の弱さなどが指摘されている。今まさに、「人と人とのかかわりを大切にした活動」の工夫が求められていると考える。

学級活動の内容(1)の活動においては、学級や学校内の生徒相互の直接的な人間関係について理解を深め、交流を図ることが大きな柱となっている。一方、学級活動(2)アの活動においては、より広い意味での人間関係の在り方を考え、男女の交流、異学年交流、そして地域の方や関係機関の方等との「人と人とのかかわりを大切にした活動」を通して、望ましい人間関係を確立していくことが大切である。

◆ 「人と人とのかかわりを大切にした活動」例

① 活動内容(2)アの「(オ)ボランティア活動の意義の理解」と関連させた指導事例

〈地域の関係機関の人たちとのかかわりの活動事例〉

・活動名 「クリーン作戦—地元地域を全校で清掃しよう—(3学年)」

・活動の流れ

1 生徒会役員からの呼びかけで班長会(学級企画委員会)を開催

2 学級内で班長会(学級企画委員会)を中心に地域を調査

3 学級内で調査結果を報告し、各班で清掃箇所を検討

4 生徒会による地域関係機関を交えた準備委員会を実施

5 地域や、保護者の方の協力のもと全校一斉に清掃活動を実施

② 活動内容(2)アの「(フ)青年期の不安や悩みとその解決」と関連させた指導事例

〈他学年の生徒とのかかわりの活動事例〉

・活動名 「不安や悩みについて話し合おう(2学年)」

・活動の流れ

1 2学年の学級の班長会(学級企画委員会)で悩みについてのアンケートを実施

2 アンケートの集計結果を3学年の学級活動に情報提供する。3学年の学級活動で上級学年が考える解決策や下級生へのアドバイスを協議

3 3学年からのアドバイスや意見をもとに再び2学年の学級内で協議

③ 活動内容(2)アの「(エ)望ましい人間関係の確立」と関連させた指導事例

〈小学校の児童(異校種間)とのかかわり〉

・活動名 「小学校でのアシスタントティーチャー体験をしよう(3学年)」

・活動の流れ

1 学級委員会からの呼びかけ(学年行事との関連)、各学級への趣旨説明

2 学級ごとに班長会で授業内容(教科)を検討し、小学校と連絡調整して学年委員会で決定、学級内で班ごとに指導計画の作成

3 小学校に出向き、事前に分けられたグループごとに小学生を学習指導

### (3) 生徒が主体となる活動の工夫

生徒が主体となって活動をすすめるためには、その活動が「生徒にとって身近な事柄であること」また、「その活動と一緒に取り組んでいこうとする雰囲気があること」が大切である。そのためには、委員会・班・係などの学級内の組織を活性化させ、計画→実践→評価→改善のサイクルを定着させることが大切である。

学級リーダーの活躍する場として学級企画委員会（担任＋学級委員＋班長）、又は班長会などを定期的に行うことで個人及び社会の一員としての在り方について考えることができる。また、前向きに意見交換をすることで、担任が見落としがちな諸問題や課題が早期に発見できることもあり、さらに、早期解決に向けて生徒が主体的に取り組もうとする意欲にも結びつくのではないかと考えた。（図2参照）

### (4) 教育相談の手法等を活用した活動の工夫

学習指導要領解説-特別活動の活動内容(2)アにおいて「生徒にとって身近な問題を取り上げたり、様々な活動の方法を取り入れたりして、生徒が自分自身の問題として受けとめていくよう適切な指導・援助を行う」とある。特に中学生の時期は、感情の起伏が激しい時期であり、その指導や援助に専門的な知識や技能が求められることも少なくない。このことから、学級活動(2)アにおいても、「(7)青年期の不安や悩み」「(イ)自己及び他者の個性の理解と尊重」などの活動に、養護教諭やスクールカウンセラーとのチームティーチングを取り入れることは効果的であると考えられる。本研究においては、担任とスクールカウンセラーのチームティーチングによりストレスマネジメントを取り入れた取組を行った。（図3参照）

学級の実態等に応じて、その他の手法（構成的エンカウンター、ピアサポート、ソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニング、ロールプレイング）など教育相談的な手法を学級活動に取り入れることも考えられる。

図2 生徒が主体となる組織を生かした活動の流れ例

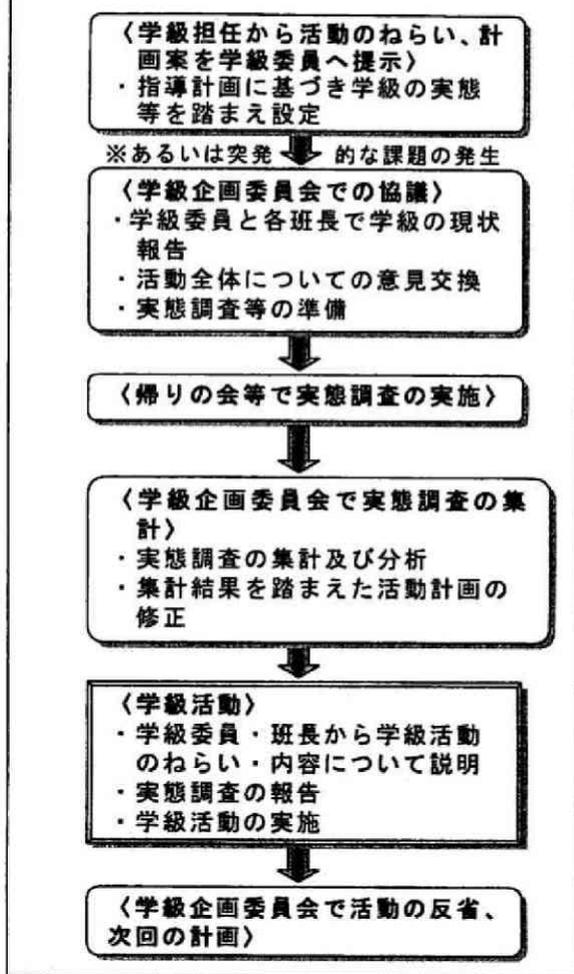
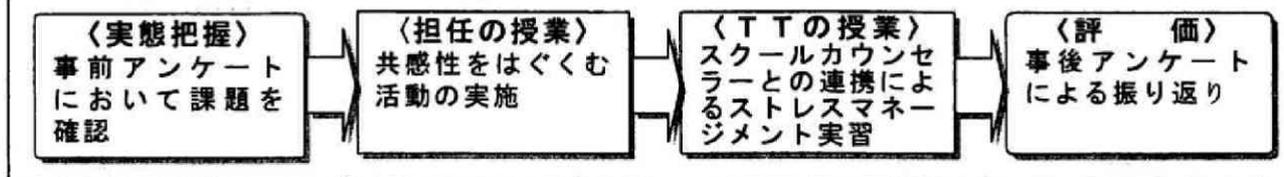


図3 ストレスマネジメントを取り入れた活動の流れ（例）



### 3 指導事例1 活動名「不安や悩みについて話し合おう」(第2学年)

#### ■事例の概要

本事例は、中学校段階特有の様々な不安や悩みを、学級でのグループ協議の内容や異学年の意見・助言を参考に解決していこうとする態度をはぐくむことや、不安や悩みを学級の生徒同士のかかわりの中で解決していくことの大切さを理解させることを目標としたものである。

生徒がグループや学級全体で考える2学年生徒の不安や悩みについての例は、教師が学級生徒を対象に行った実態調査等をもとに作成した。

また、不安等の例に対する生徒自身及び学級集団等による問題解決の方法については、あらかじめ3学年の学級活動で「悩み・不安をもつ後輩へのアドバイス」を考えさせた。直接、活動の場を共にしてはいないが、異学年とのかかわりを生かした事例である。

#### (1) 活動の目標

- ・不安や悩みの解決方法について、班または学級全体で意見を出し合い、問題解決に向けて話し合おうとする態度を育てる。
- ・不安や悩みを皆で解決していくことの大切さを理解する。

#### (2) 本活動の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>○不安や悩みを皆で解決していくことについて意欲をもって活動に取り組むことができる。</li> <li>○活動を通して学んだことを自らの生活の中で積極的に生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不安や悩みをかかえている人へのかかわり方について自己の課題を見出すことができる。</li> <li>○自己の課題についての解決方法を考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不安や悩みを皆で解決していくことについて、自分なりの考えを、班会議・学級会議で表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不安や悩みを皆で解決していくことの大切さを理解することができる。</li> <li>○不安や悩みについて解決していく方法について理解している。</li> </ul>

#### (3) ねらいの達成のための工夫

##### ① 生徒が主体となる活動の工夫

- ・当該学級で行った実態調査・意識調査を参考に教師が生徒の不安・悩みについての具体例を用意する。学年・学級の実態に応じた具体例を作成することで関心を高める。
- ・学級企画委員会の実施、班長による班会議の進行、委員による学級会議の進行など、生徒主体の活動によって意欲を高める。

##### ② 人と人とのかかわりを大切に活動の工夫

- ・異学年(3学年)で、共通な事例を用いた活動を行い、その活動で出た意見を参考にさせ、問題解決の手がかりとする。

##### ③ 指導と評価の一体化を図る工夫

- ・ワークシートへの記入内容と、班会議・学級会議の観察により「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」を評価する。また活動を振り返った感想の内容により「知識・理解」を評価する。

#### 教師が作成した事例1

(ある中学校2年女子の悩みより)

部活動では夏の総合体育大会が終わり3年生は引退をしました。

私たちバレー部も新旧交代の時期となり、誰もが新部長は誰なのか、自分こそ、という雰囲気がありました。バレー部の部長は顧問の先生が毎年決めることになっています。

そんなある日、新部長が発表され、部長は私になりました。実力的には自分を上回る部員が他にたくさんいたと思うので、その中間の目が気になり、毎日がとても憂うつです。このまま部長の大役を続ける自信がないのですが、どうすればいいでしょうか。

※他に5事例を作成し、各班に分担

#### (4) 指導の実際

◆ 事前活動 1			
活動の場	活動の主体	生徒の活動	指導上の留意点
放課後 50分×2回	学級企画委員会 (学級委員+班長)	①担任教師から活動の概要説明を受け、活動計画を作成する。 ②意識調査・実態調査の内容・項目を検討し、調査用紙を作成する。	○生徒の自主的活動を活性化させるため、細かな計画は示さない。 ○調査の内容については、個人のプライバシーに配慮するよう指導する。

◆ 学級活動の時間 第1次	
生徒の活動	指導上の留意点
①学級委員から本活動についての説明を行う。 ②不安や悩みについての意識調査・実態調査を実施する。	○不安や悩みについて、学級で共に解決に取り組んでいくことの大切さを伝える。 ○教師から本活動の意義・意味について補足説明する。

◆ 事前活動 2	
生徒の活動等	
①意識調査・実態調査の集計と活動案の再検討をする。(放課後50分、学級企画委員会)	
②担任教師が作成した2学年生徒の不安・悩みの具体例案について協議する。(放課後50分、学級企画委員会)	
③各班への具体例の振り分け、学級活動(第2次)の準備をする。(放課後50分、学級企画委員会)	
④各班長から、6つの具体例の提示(帰りの会、全員)	

◆ 3学年の学級活動の時間(1時間)	
生徒の活動等	
①学級委員から本活動のねらい等について説明をする。	
②2学年担任が作成した6つの悩み・不安の具体例について、先輩である3学年としての助言をグループで考え、まとめる。(※3学年担任と2学年担任は活動のねらい、内容等についての共通理解を図る。)	

◆ 学級活動の時間 第2次	
生徒の活動	指導上の留意点
①これまでの経過の説明を受け、学級企画委員会の内容を学級委員が説明する。	○意識調査の結果にも触れ、活動の目標を確認する。 ○ワークシートを工夫し、積極的に話し合いに参加させる。 ○3学年の助言を参考に、自分の意見をまとめられない生徒に対して個別に支援を行う。 ○生徒主体の活動になるように、学級委員に協議の進行をさせる。 ○本活動のねらいを再確認させ、この活動の大切さを伝える。
②班会議で、事例に対する解決策や助言を協議し、まとめる。	
③3年生の助言を班長が読み上げ、話し合いを再開する。	
④班会議の内容をまとめて班長が発表し、学級全体で意見を出し合う。	
⑤活動を振り返り、活動を通して考えたこと等について感想を書き、発表する。	

◆ 事後の学習	
○学級企画委員会で本活動についての評価を行う。	

#### (5) 努力を要する状況の生徒への手だて

- ・班会議等の際に意欲的に参加できない生徒や自分の意見をまとめられない生徒に対して、個別に支援を行う。
- ・ワークシートの記入内容を評価し、コメント欄を用いて改善点について助言を行う。

#### (6) 生徒の変容

- ・本活動の過程において、自分の考えを表現すること、他人の意見を聞くことを経験し、問題解決に向けての意見交換が活性化した。
- ・意識調査では、不安や悩みについて学級活動の時間において皆で相談して解決していると思う生徒はわずかであったが、活動を振り返り、学級内に自己を打ち明け、ともに問題解決に取り組んでいきたいと答えた生徒が多くなった。

#### 4 指導事例2 活動名「教育相談の手法による不安解決へのアプローチ」(第2学年)

##### ■ 事例の概要

本事例は、程度の差こそあれ、思春期の中で多くの不安や悩みを抱えている生徒の状況を踏まえ、自分で不安等を軽減する方法を理解するとともに、学級内で他者の悩み等を受け止め、気持ちに寄り添うことの大切さ等について考えさせる事例である。

学級活動の時間においては、「(イ)自己及び他者の個性の理解と尊重」の活動として、教育相談の手法を取り入れたロールプレイによる傾聴訓練体験を第1次に行った。その後、第2次として「(ア)青年期の不安や悩みとその解決」の活動である、学級担任とスクールカウンセラーとのチームティーチングによるストレスマネジメント実習を行った。

##### (1) 活動の目標

- ・他者の悩みを受け止める活動や、不安や悩みを軽減する方法の学習に意欲をもって取り組む。
- ・自分自身や他者の状態を判断し、気持ちに寄り添う態度を考える。
- ・不安や悩みの受け止め方と解決方法を理解する。

##### (2) 本活動の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○他者の悩みを受け止め活動や、不安や悩みを軽減する方法の学習に意欲をもって取り組むことができる。	○相手の気持ちに共感しようと、思いやりを持って接するように自分の態度を考えられる。 ○自分や相手の状態を判断し、気持ちに寄り添う態度を考えられる。	○与えられた役割に沿って応答できる。 ○考えたことをワークシート・班会議で表現することができる。 ○実習により、緊張を軽減し、不安や抵抗を軽減できる。	○不安や悩みの受け止め方の基本を理解できる。 ○話を聞く態度の大切さを理解できる。 ○不安や悩みを軽減し、共感を通して解決する意義を理解できる。

##### (3) ねらい達成のための工夫

<p>① 教育相談の手法等を活用した活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイによる傾聴訓練を実施する。</li> <li>・ストレスマネジメント実習を行う。</li> <li>・不安や悩みの専門家であるスクールカウンセラーから、活動全体についての助言を受ける。</li> <li>・授業における生徒に対してのストレスマネジメント実習等の指導と授業後に生徒が個別指導を受ける。</li> </ul> <p>② 生徒が主体になる活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級委員や班長に、学級の課題を投げかけ、その改善に向け、主体的に活動させた。</li> </ul> <p>③ 配列の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動の時間においては、第1次で「(イ)自己及び他者の個性の理解と尊重」の活動を行い、第2次で「(ア)青年期の不安や悩みとその解決」の活動を配列した。</li> </ul> <p>④ 指導と評価の一体化を図る工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「振り返りシート」を用いて評価を行い、スクールカウンセラーの協力を得て、面談等により個別指導を実施する。</li> </ul>	<p>※ロールプレイで例示した内容</p> <p>◇「テーマの例」 好きな食べ物、自分の趣味、将来の夢、昨日の出来事、好きな音楽、スポーツ、移動教室の思い出</p> <p>◆「自分本位な態度」 相手の意見を否定する、相手を見下す、「ふ〜ん、〜」と偉そうに相づちを打つ「そんなことばかっている」という態度類杖をつく、足や腕を組む</p> <p>◆「無関心な態度」 相手のことを見ない、相手から離れる横を向く、髪や服をいじる、爪をかむ、眠たそうにあくびをする、質問をしない</p> <p>◆「関心ある態度」 相手の目を見る、何度もうなすく笑顔で聞く(表情)、いろいろ質問する相手の話に関心する</p>
--	--

#### (4) 指導の実際

◆ 事前活動			
活動の場	活動の主体	生徒の活動	指導上の留意点
放課後 50分×1	学級委員 + 班長	①学級委員・班長は、担任から活動のねらいや内容などの説明を受ける。 ②班長が、活動内容を協議する。	○クラスの現状と課題を実態調査を基に説明し、活動の必要性とねらいを明らかにする。
帰りの会	全 員	③担任から実態調査結果を基に、活動のねらいを、班長からロールプレイについて説明する。	○話をするテーマについて、自分たちで話しやすいものを考えさせる。
昼休み	学級委員 + 班長	④ロールプレイの実演に向け、分担した役割を実際に行い、練習する ⑤実習を進めやすいペアの作り方について検討する。	○班長にロールプレイの例示のための分担と話し方の特徴を確認させる。 ○ねらいとクラス内の人間関係を考えたペアの作り方を考えさせる。

◆ 学級活動の時間 第1次	
生徒の活動	指導上の留意点
①担任から本時の流れの説明を受ける。 ②生徒同士でペアになり、ロールプレイを行う。 「自分本位な態度」 「無関心な態度」 「関心ある態度」 } で、2分ずつ相手の話を聞く。 (お互いに交代して行う) ③役割ごとに、「振り返りシート」に感想を記入。 ④班で、感想を発表し合い、まとめる。 ⑤教師から、本時のまとめを聞く。	○ロールプレイの留意点を確認する。 ○それぞれの役割の態度のもつ特徴的な発言や姿勢等を黒板に掲示し、説明する。 ○話をする内容について例示し、黒板に掲示する。 ○班長が役割態度ごとに、ロールプレイを実演し、理解を深め、興味を高めさせる。 ○班長が司会をし、感想を共有させることにより、聞く態度の重要性について確認させる。 ○次時につながるようにまとめる。

◆ 学級活動の時間 第2次	
生徒の活動	指導上の留意点
①前時の授業の内容を振り返り、話を聞く側の態度の重要性を確認する。 ②自分たちで不安を軽減するストレスマネジメントを体感し、その解決方法の選択肢を広げる。 ③スクールカウンセラーから、不安や悩みを聞くときの留意点や、好ましい態度についての説明を受ける。 ④「振り返りシート」に本時の感想を記入する。 ⑤教師から、思春期という時期の特性について説明を受けるとともに本時のまとめを聞く。	○リラックスした雰囲気を作る。 ○スクールカウンセラーや実習内容への緊張感や不安についても同時に軽減を図る。 ○実習は、見学だけでもよしとし、強要をしない。 ○言葉だけでなく、表情、態度等を総合して相手を受け止めることを確認させる。 ○不安や悩みを解決するために必要な能力や態度について個々の課題を明確にさせ、意識付けを強化する。

◆ 事後の学習 ○学級委員・班長で本活動についての評価を行う。

#### (5) 努力を要する状況の生徒への手だて

- ・担任は、自己評価カード（振り返り用紙）による生徒のコメントを確認して、個々の生徒の状態を把握し、適切な助言を行う。
- ・スクールカウンセラーの援助を得て、個別の指導・助言や訓練を活動後に行う。

#### (6) 生徒の変容

- ・傾聴訓練の授業においては、聞き手の態度により、話し手側の気持ちに大きな変化が見られたことが、表情や振り返りシートの肯定的な意見から確認された。
- ・ストレスマネジメント実習では、初めは実習に対する生徒の不安もあり消極的であったが、リラックスすると同時に積極的に参加するようになった。また、不安や悩みを聞く態度の留意点を、関心をもってうなずきながら聞く生徒が多く見られた。

## IV 研究の成果と課題

中学校段階の生徒たちの規範意識の低下や問題行動の発生、無気力化の傾向等の状況を踏まえた時、各学校や学級の実態に応じて学級活動(2)アの活動を意図的・計画的に実施するとともに、活動内容の改善・充実を図ることが重要であると考え、「学級活動(2)アにおける、生徒一人一人の健全な生活態度を養う取組等を通して」を研究の副主題に設定し、各学校における実施状況等の実態調査並びに、指導内容・方法と評価方法について開発を試みた。その結果、以下のとおりの成果と課題を得ることができた。

### 1 本年度の成果

- 学習指導要領に示される学級活動(2)アの6つの内容例の中で「(ア)青年期の不安や悩みとその解決」については、実態調査の実施により、教師・生徒の双方が不安や悩み等の個別の問題を学級という集団で取り上げることに躊躇している等の実態があり、学習指導要領の「基準性」を考えた時、実施上の配慮点や具体的な活動例を示すことの必要性が明らかになった。
- 学級活動(2)アの内容例の中で「(ア)青年期の不安や悩みとその解決」の充実については、活動の実施の前段階として「(イ)自己及び他者の個性の理解と尊重」や「(ウ)望ましい人間関係の確立」の活動を配列することで、個々の生徒の自己理解を一層深めるとともに、豊かな人間関係をはぐくむことが分かった。また、「(ア)青年期の不安や悩みとその解決」の活動において学級内に互いに自己の問題を打ち明け、ともに問題の解決に取り組んでいこうとする雰囲気学級に醸成することにつながることが分かった。このことから、教師が内容項目を意図的・計画的に配列し、指導方法を工夫することが学級活動(2)アを充実させるために効果的であることが明らかになった。
- 生徒の意識調査等を学級活動(2)アの活動の事前・事後に行い、集計結果等を提示することにより、生徒自身が学級や個人の意識の実態や変容等に気づき、生徒の関心・意欲を高め、自発的・自治的な活動が一層進むことがわかった。
- 異学年においても同様な取組を行い、意識調査の結果や学級活動での話し合いの内容等を指導に生かすことの有効性や、スクールカウンセラーなど専門的な知識を有する人材や教科担任や養護教諭とのチームティーチングなども有効な手だてであることが活動から分かった。

### 2 今後の課題

- チームティーチングの実施など教師間の協力体制をどのように構築するかについて研究を進めることが必要である。
- 生徒の実態に合わせた、生徒の自発的・自治的な活動とするための事前・事後の調査の在り方や活動の評価の在り方について実践を通じた検証を進めることが大切である。
- 実態調査から「(ア)青年期の不安や悩みとその解決」に続いて、「(エ)男女相互の理解と協力」「(カ)ボランティア活動の意義の理解」なども教師が取り上げ難いと感じていることが明らかになった。今後、本研究の成果を踏まえて、実践・研究を行いながら「基準性」に基づいた教育活動の推進、とりわけ、健全な生活態度を養うための手だての研究開発を行っていくことが、一層の特別活動の充実のために必要である。